

心一つに ~one heart, one mind~

宮之城



~ 校訓：誠実・向学・鍛練 ~

令和2年度 第5号 [令和2年11月13日(金)発]

〒895-1803 薩摩郡さつま町宮之城屋地391

Tel 0996(53)1587 / Fax 0996(53)0504

・HP <http://www2.satsuma-net.jp/miyanojochu/>

・ブログ <https://blog.canpan.info/miyachu/>

・E-mail: [syoku-c-miyanojo@mail.satsuma-net.jp](mailto:syoku-c-miyanojo@mail.satsuma-net.jp)

## 豊かな人生を送る秘訣「メタ認知力」

本来なら、今年は、東京オリンピックや鹿児島国体が開催され、スポーツの秋色になっていたはずですが、まさか、1年間で、こんなにも世界情勢が変わるなんて、だれも予想できなかったことでしょう。新型コロナウイルスの感染拡大は、来年以降もしばらくは続きそうですね。ワクチンが普及して早く終息し、2023年開催の鹿児島国体の大成功に期待しましょう。

さて、本校では、10月8日に「銀河鉄道の夜」の演劇を鑑賞しました。プロの俳優さんが見せる演劇はやはり迫力がありましたね。劇の中では、ジョパンニ(主人公)が既に死んでいる友人と一緒に銀河鉄道に乗り「本当の幸せと何か」を探し求める旅に出かけます。時間や空間を乗り越え、出会ったものを客観的に考察して、幸せを実感できる生き方にたどり着きます。皆さんにとって、「本当の幸せ」とは何でしょうか。・・・

私は、今回の演劇から人生を豊かにするための手段を確認できました。それは「メタ認知力」という力です。メタ認知力とは、自分の思考や行動そのものを対象化して認識することにより、自分自身の認知行動を把握することができる能力です。少し、理解しづらいですね。

私たちは日頃、自分の視界の中だけで生きています。「自分の思考」の壁に囲まれている状態です。「囲まれている」ことにすら気づいていません。ここから抜け出すためには、「自分は思考の壁に囲まれている」と認識することが必要です。自分の思考の壁をよじ登って物事を一つ上の視点から見ようとする力、これがメタ認知力です。まさに、自分の心の中で銀河鉄道を走らせるのです。SCの先生は、生徒たちに、よく、このメタ認知力を身に付けることの重要性を語ってくれます。メタ認知力がつくことで、自分のことを客観的に観察し、相手への気遣い、配慮、状況判断、そういった気配りができます。適切な距離感を保ちつつ、スムーズにコミュニケーションがとれるので、それは、仕事や友達等の人間関係、親子関係、恋愛においても、大きく役立つものと言えます。学校や職場でよくトラブルを起こす人は、少なからずこのメタ認知力に欠けている傾向が見受けられます。生徒たちには、自立して大人になっていく過程で、ぜひ、メタ認知力を身に付け、豊かな人生を送ってほしいと思います。

## 業務改善② ~学校の業務って何ですか?~

前回は、保護者の方に、学校の業務改善に向けた理解と協力をお願いしたい旨を書かせていただきました。今回、学校の業務がどのように増大しているかを具体的に説明します。

学校の本業は、文部科学省が告示する「学習指導要領」や「解説書」をもとに、各教科、道徳、総合的な学習、特別活動の内容が柱になり、その内容を効率的に指導するための組織(校務分掌)を作って教育することです。しかしながら、その内容は改訂される度に増大する一方で、今回、小学校では英語科が必修化され困惑している教員も少なくありません。それでも、はっきり言えるのは、学校の本来の業務は「学習指導要領」や「解説書」の内容だけなんです。

しかしながら、昨今、社会的な要請により、例えば次のような教育課題が、各方面から提唱され学校教育に特段の対応を求めるようになります。法教育、主権者教育、租税教育、金銭教育、郷土教育、日本の伝統・文化教育、国際理解教育、健康教育、食育、性に関する教育、がん教育、薬物乱用防止教育、安全教育、防災教育、平和教育、環境教育、E S D、再生可能エネルギー教育、放射線に関する教育、情報モラル教育、ICT教育、消費者教育、プログラミング教育など・・・一覧で書き出すだけでも一苦労ですが、校長が受入れると、それは「業務」になります。

それだけだけではありません。中学校では「部活動」という特殊な業務があり、時間外業務の大きな要因になっています。特に、土・日の部活動指導は本来の勤務ではなく、顧問の献身的な善意によって支えられているのが現状です。

その他にも、保護者や地域からの要望などがあります。家庭や地域で解決すべきことを学校に求める内容が多く、職員は、戸惑いながらも誠意をもって対応しています。

以上が現実的な業務であり、毎日、教員は朝から晩まで昼の休憩も十分とることなくフル回転で業務をこなしていると言えれば分かりやすいでしょうか。

では、学校はなぜ、このような状況になってしまうのか。どうすれば業務を縮小できるのか、保護者や地域は、どんな協力すればよいかのか等について、次回、説明します。

